

知事と区市町村長との意見交換会（昭島市）

令和2年10月28日（水）
15時20分～15時40分

○行政部長 それでは、意見交換を始めさせていただきます。

はじめに、知事からお願いいたします。

○知事 本日、御多用の中、お越しいただきました。さて、コロナ対策、また連日続いているわけでございますけれども、ウィズコロナの社会をどうやって作っていくのか。また、都政で構造改革も強力に進めておられて、それを梃子に新しい日常、サステナブル・リカバリー、これを都政としてもやっていく上において、現場の皆様方のお声もお聞きしたいということで、今日お招きをさせていただいております。また、長期戦略の方にも反映をしていくための、今日は意見を伺わせていただきたいと思いますと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは、臼井市長、発言をお願いいたします。

○昭島市長 こんにちは、昭島市長の臼井伸介でございます。小池知事におかれましては、また都の幹部の職員の皆様方、このような機会を設けていただいたことを、まずもってお礼申し上げます。ありがとうございます。

時間がないものですから、早速お話しさせていただきたいと思っております。

市への総合的な支援につきましては、今のコロナ禍の中で大変景気が低迷しているということと、4月から6月のGDPを見ても、年率換算すれば28.1%の減というような状況でございますので、市税についても、うちも一部上場会社も結構あるものですから、今後どれくらい落ちていくのか、来年度の予想は今、一生懸命財政の方で立てているんですけど、厳しい状況がございます。徴収も低迷していることから、地方消費税交付金等々の連動する税金等も収入減になるだろうということもございます。コロナ禍ということもございますから、今、我々が都からのいろいろな補助金をいただきながら、自然災害に備えたところの避難所運営等々、そして、新たな日常を踏まえたデジタル化の推進など、スマート東京の実現に向けた取組が急務であると思っておりますのでございます。

また、一つ御礼ですけれども、昭島市には、19の小・中学校がありますが、昨年、真っ先に昭島市、手を挙げさせていただいて、避難所の所の部分においては、19か所の体育館の中を昨年6校、今年6校、来年7校と冷暖房をつけさせていただいて、10億8,000万円ぐらいかかったところなんですけれども、そんなに国の方から出なかったものですから、東京都の方から出していただいたことは、改めて御礼申し上げます。うちも市債を含めて2億8,000万ぐらい、3億かからないで済んだこと、感謝しています。今回台風14号来ましたけれども、避難所に行くまでもなく済みましたが、冷暖房、大変暑かったものですから、去年入った所の子供たちが、大変喜んでいました、本当にありがとうございました。

今年度につきましては、いろいろな事業を、倒産というより廃業が少し見えてきている

かなと、コロナ禍というところだけじゃなくて、長年やっていて後継者も育たないようなところの中で、事業の縮小を考えてやめていくという、決して倒産ではなくて廃業されていくというところも少し見受けられるのかなと、大変心配してるところでございます。

そして、来年度の予算編成ですけれども、先ほど言いましたように、地方消費税交付金等々が減額されるだろうし、法人市民税についても、税制改正の中で、強いてうちの市税なんだけど、ほかに持って行かれるような税制改正があるもので、ほかの他県の方に行くケースもあるでしょうから、少しまた落ち込むのかなというふうな形で見ているところでございます。

本年度当初については財政調整基金が51億ぐらいありましたが、6億6,000万円、そちらの方に使わせていただいて、コロナ対策として4億円ぐらい使わせていただいたところでございます。そういった意味で、今後の対応としては、都におかれましては総合交付金等、やはり財政の部分のところで総合交付金、うち13億ぐらいいただいているということで、大変ありがたく思っているところでございます。

やはり、総合交付金、小池知事になられて500億円突破して、今580億円まで伸びたっていうことに関しては、本当感謝を申し上げているところでございます。都区内は、1人に14万も出すとこもあれば、うちみたいになかなか出せなくて、独り親あるいは就学援助の子供たちに6万円、5万円と一番困っているところに出す市もあるわけですから、そういった意味で、三多摩格差の中にも、三多摩の中でも裕福な市がありますし、裕福じゃないうちの市みたいなのところもあるものですから、是非そこら辺を考えていただいて、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

続けてよろしいですか。

○知事 はい、どうぞ。

○昭島市長 新型コロナウイルスの感染症法上の運用見直しについては、政府は新型コロナウイルスの感染症法上の運用見直し等の考えを示しております。これまでの対策から得られた知見や感染状況などを踏まえ、現行の措置の見直しを検討することは十分、もう本当に理解するところであります。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が感染症法の疾病分類の2類相当から外れると、公費負担による自己負担が生じない形で入院治療や検査をためらいなく受けることができた環境が一変することになります。対象者が自己負担を避けるため検査や医療を回避し、感染の拡大防止や適切な治療の提供に支障が生じる懸念を拭い去ることはできないわけでございます。新型コロナウイルス感染症法上の運用の見直しにより医療費の公費負担が廃止されたとしても市民が安心して医療や検査を受けることができるように、都の独自の財源による自己負担、助成制度の創設に是非検討をしていただきたいと思います。都はしっかり対応させていただいているところでございますけれども、国も含めて是非対応方よろしくお願ひしたいというふうに思います。

最後になりますけれども、施設入所予定者に対するPCR検査の実施につきましては、福祉サービスを提供する各事業所では、施設内での新型コロナウイルス感染症の発症に不安

を抱えながら、使命感を持って必要な対応を継続していただいております。心から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。しかしながら、こうした施設において、新たな利用者の受入れに困難性が生じております。特に特別養護老人ホームやショートステイ、ミドルステイの現場では、新たな入所者が感染していない確証を得ることが困難であり、また、そのためにPCR検査などを独自に実施すれば、多額の費用が必要となります。こうした施設に勤務されたエッセンシャルワーカーなどへの検査については、国や東京都において拡充の方向性が示されましたことに、重ねて感謝を申し上げる次第でございます。

しかしながら、これから入所などをされる方については、まだ方向性が明確となっております。こうした点を十分に御理解いただき、都の財政負担によるPCR検査の実施など、必要となる対応につきまして検討をお願いしたいと思っております。

今、自己負担というか、1件の補助の中で2万円ということでございますので、昭島市の場合におきましても、市の行政負担は1人当たりについて、やはり3万3,000円ぐらいなんですね。行政で見る場合においても、医師派遣が2時間で6万6,000円となっておりますので、2万円からもうひと声というところで発奮をお願いしていただきたいというところが切なる願いでございます。そうすることによってPCR検査の更なる拡充、そしてまた、市民の皆さんが安心して生活できる環境が整うのではないかと。これは国、東京都に是非小池知事の方から働きかけをお願いしたいと思いますし、独自の2万円をプラスアルファしていただければ有り難いというふうに思うところでございます。

最後に、昭島市全体の話で言えば、やはりどこの市でもそうでしょうけど、公共施設等の建替え（※老朽化が大きな課題の一つ）がある。本市においては東京都から移管されてきた施設が結構あるものですから、そこら辺の部分については今後、交渉しながら進めていき、190億円（※今後20年間の公共施設維持管理費）ぐらいかかる目安（※財源不足が見込まれている）ですから、東京都から移管された部分については、ちょっとお話を聞いていただける機会を設けていただくと有り難いかなと思っております。それが昭島にとって、今の一番の最大の懸念であると思っておりますので、全体的にはそのぐらいの話で終わらせていただきます。今後ともよろしく申し上げます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○知事 私の方から、コロナウイルスの関係の幾つか御指摘がありましたので、それについてお伝えしたいと思います。

感染症法上の2類相当ということでございますけれども、今後の措置、運用見直しの動きがございます。様々な知見の集積や更新が日々なされていることから、科学的なエビデンスに基づきながら、国は政令改正で、例えば、入院勧告の対象などを見直しもしたところでもあります。高齢者などを中心とした入院で、軽症、無症状については療養施設というような仕分も含んでおります。引き続き、この国の感染症法上の適用をどこまでどうするのかについては、これは国の方で検討しておられるということで、動向をよく見ていき、また、国の方針などを踏まえながら実効性のある対策を検討してまいりたいと考えており

ます。

それから、今も申し上げましたように、高齢者は入院していただくというの、重症化しやすいからというのがベースになっております。それを同じように、高齢者の施設でも同じことでありまして、特別養護老人ホームなど入所施設への感染防止の対策もやはり重要だという認識を持って進めております。そこで、10月に特養などの入所施設を対象にPCR検査の費用などへの補助を開始いたしましたところでありまして、この事業で職員とそれから既に入所している方、更に新規に入所される方への検査についても補助対象となっております。よって、これらのことを活用していただきながら進めていこうと考えておりますが、何よりも事業を円滑に進めるために、施設などへの丁寧な説明を行いながら支援を行ってまいります。

やはり、高齢者の施設などでのクラスターが生じますと、その機能を失われたり、それから重症の方が増えてしまうということなどから、いろんな動画でも見ていただいて、そのポイントですね、改めてその点を職員の皆さんなどにも徹底していただければというふうにも考えております。

あと、多羅尾副知事の方から。

○副知事 財政の問題でございますけれども、コロナ禍は、お話のように、もう自治体財政の歳入歳出ともに大変大きな影響を与えていると、全く同じ認識をしているところでございます。都では、総額100億円の特別交付金の交付でありますとか、市町村総合交付金の本年の6月の概算交付額の引上げなどを行いまして市町村の財政支援に取り組んできたところでございますが、今後とも市の財政状況等を踏まえつつ、市町村総合交付金などにより適切な御支援をさせていただきたいというふうに思っております。

また、施設の更新、中神の勤福のことなどをおっしゃっておられると思うんですけど、御相談させていただきたいと思っております。

○行政部長 それでは、臼井市長、今のお話受けて、いかがでしょうか。

○昭島市長 声がでかいので、マイク持つと、選挙が終わったばかりなんで、ちょっとテンション上がっちゃうんですけど。大変有り難く思っているところでございます。是非コロナ対策等々のことについて。うちの方は自治体、今11万3,000から4,000人近い人口なんですけども、58名だね、今のところ58名で。

○知事 累計でね。

○昭島市長 累計で今58名。今はもう退院されている方がいるか。

○昭島市保健福祉部長 今、入院治療者、1名です。

○昭島市長 1名だけ。そういうような、しっかりソーシャルディスタンスを保ちながら、三密を控えながら、飲み会も控えながらやっているところでございますので、これも継続して、ただ、PCR検査の部分について、しっかりお願いしたいところでございます。

あと今、多羅尾副知事さんの方からありましたように、公共施設等の部分についてはこの自治体も考えているところでございますので、よろしく申し上げます。特に総合スポーツセンターのところは都から移管されたものですから、そのことが長年の懸案事項なので、

よろしくお願ひしたいと思ひます。

○行政部長 どうもありがとうございます。

それでは、最後に、知事からお願ひいたします。

○知事 今日伺ひました御意見、御要望を踏まえまして、未来の東京を切り拓く指南とする長期戦略、この策定への参考、また来年度予算編成に当たつての施策事業の検討に取り組んでまいりたいと考えております。どうぞこれからもよろしくお願ひいたします。今日はわざわざ御苦勞さまでした。

○昭島市長 いえ、ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。